

悲嘆を抱えた人々のために —記者の役割、宗教者の役割—

「世界の苦悩に向き合う仏教の智慧と慈悲—仏教の実践的研究」をテーマとする世界仏教文化研究センターでは、社会実践活動のより良いあり方について研究を進めています。特に、自然災害などの復興期に悲しみや苦しみ感情を強く持つ人々とどのように向き合い関わるができるのでしょうか。記者の視点から学び、宗教者による社会実践活動の意味を考える機会にしたいと思います。

1月12日（金） 10：45～12：15

龍谷大学 大宮キャンパス
清風館3F 共同研究室1, 2

講師：鈴木 英里（東海新報社）

一般歓迎
申込不要

岩手県大船渡市出身。岩手県沿岸南部（大船渡市、陸前高田市、住田町）で約9割の購読シェアを誇る新聞社「東海新報」の記者。ご自身が東日本大震災で被災されつつも、地元メディアの役割として被災者、支援者を一番間近で取材を続け、かつ外部発信をしてこられた。

主催 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

共催 龍谷大学経済学部
龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

東日本大震災から6年10ヶ月が経ちます。
あれから津波被害を受けた街の風景は
どのようになっているのでしょうか。
人々の心象はいかなる様子なのでしょうか。

本研究会では「知る」だけでなく、もう一步踏みこんで
「深める」「繋げる」ことをねらいとします。

午前中は大宮学舎にて公開研究会を開催し、
午後は場所を深草学舎へ移して、
学生さんたちを中心に今後の支援活動のあり方や、
ボランティア論などについて議論を深めたいと思います。

興味関心ある多くの方のご参加をお待ちしております。

龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 公開研究会

2018年 1月 12日(金)

午前の部: 10:45~12:15

午後の部: 15:00~16:30

場所: 龍谷大学大宮学舎清風館3F(一般公開)

場所: 龍谷大学深草学舎22号館204教室 (参加希望の方は要問合せ)

10:45~10:50 開会挨拶 趣旨説明
金澤豊(世界仏教文化研究センターPD)

15:00~15:05 開会挨拶 趣旨説明
金澤豊(世界仏教文化研究センターPD)

10:50~11:30 講演 鈴木英里氏(東海新報社 記者)

15:05~15:45 講演 鈴木英里氏(東海新報社 記者)

11:30~12:10 ディスカッション

15:45~16:25 ディスカッション

12:10~12:15 総括 鍋島直樹(文学部教授)

16:25~16:30 総括 伊達浩憲(経済学部教授)

問合わせ先 龍谷大学世界仏教文化研究センター (担当: 金澤)

Mail: kanazawa-yutaka@ad.ryukoku.ac.jp

Tel: 075-343-3812